

# 多制度・多機関協働研修会

## 障害福祉と介護保険の相互理解

令和4年8月9日（火）18時30分～20時  
千葉市在宅医療・介護連携支援センター

# 次第

## 1 開会挨拶

千葉市在宅医療・介護連携支援センター所長 渡辺一雄

## 2 千葉市の障害福祉サービスの現状

千葉市在宅医療・介護連携支援センター主査 内田健一郎

## 3 介護保険制度について

千葉市保健福祉局高齢障害支援課介護保険管理課課長補佐 小出八重子

## 4 障害者福祉制度について

千葉市中央区障害者基幹相談支援センター管理者 伊藤佳世子様

## 5 閉会

# 研修の趣旨

- ・ 超高齢化社会に入り、障害サービス利用者の高齢化が進んでいることにより、従前の障害サービスから介護保険サービスへ移行となる利用者が、そのことによる生活状況の変容に困惑し、ケアマネジャーも対応に苦慮するケースも生じている。

このため、ケースに係る支援者が、介護保険制度や障害者福祉の諸制度の仕組みについて理解を深め、介護と障害の制度について、相互に連携して、円滑に移行できる体制を構築する。

- ・ 8050問題など、介護と障害の複合的な生活課題を抱える世帯への支援体制の強化を図るため、多機関協働推進に資する他法・他制度についての理解を深める。

# 1 千葉市の障害福祉サービスの現状

# 千葉市における障害福祉施策に係る中長期指針より（平成29年4月）

## ☆障害者人口の推計

区分	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
身体障害者	31,754	32,369	32,979	33,582
知的障害者	7,637	7,842	8,046	8,248
精神障害者	9,771	10,223	10,672	11,117
合計	49,162	50,434	51,967	52,947

### 【参考】

平成29年から令和3年では、実数が推計値を約1.7%上回っている。

# 基礎データ（令和4年3月時点）

## 1 障害者手帳の所持者数

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
身体障害者	11,001	4,280	4,613	7,307	1,429	1,615	30,245
	36.4%	14.2%	15.3%	24.2%	4.7%	5.3%	100.0%

区分	A	B 1	B 2	合計
知的障害者	2,887	1,981	2,850	7,718
	37.4%	25.7%	36.9%	100.0%

区分	1級	2級	3級	合計
精神障害者	1,561	6,061	2,895	10,517
	14.8%	57.6%	27.5%	100.0%

合計 48,480 人

## 2 障害福祉サービス受給者数 (全体)

区分	受給者数	事業所数
障害福祉サービス	7,260	490
うちR5年度中に65歳到達	110	
うちR6年度中に65歳到達	96	
うちR7年度中に65歳到達	104	

(サービス毎)

サービス区分		支給決定者数	事業所数
介護給付	居宅介護	2,045	180
	重度訪問介護	132	159
	同行援護	307	65
	行動援護	68	6
	短期入所	1,854	47
	療養介護	84	3
	生活介護	2,165	61
	施設入所支援	768	13
訓練等給付	自立訓練	183	15
	就労移行支援	545	30
	就労継続支援	2,083	76
	共同生活援助	1,054	56
	自立生活援助	4	5
	就労定着支援	240	17
相談支援	地域移行支援	14	15
	地域定着支援	68	15
	計画相談支援	5,952	72

注目！！



## 利用者負担額等の状況(令和4年3月)

所得区分	令和4年3月				
	利用者数(実数) (万人)	所得区分毎の 割合	総費用額 (億円)	利用者負担額 (億円)	負担率
一般2	1.5	1.6%	29.6	2.2	7.48%
一般1	5.4	5.6%	81.2	3.2	3.90%
低所得者	74.5	77.9%	1,837.4	—	—
生活保護	14.3	14.9%	259.9	—	—
計(平均)	95.7	100.0%	2,208.0	5.4	0.24%

(厚生労働省統計より)

# 障害福祉制度の相談窓口

(障害者福祉のあんない 2022年度版より)

- 各区保健福祉センター 高齢障害支援課及び健康課
- 各区障害者基幹相談支援センター
- 千葉市障害者相談センター
- 千葉市療育センター
- 千葉市障害者福祉センター
- 千葉市発達障害者支援センター
- 千葉市こころの健康センター
- 千葉市こころと命の相談室
- 千葉市ひきこもり地域支援センター など

# 余談 制度移行で私が困った経験（の一部）

（特養の生活相談員だった平成15年ごろの話です）

40代の脊椎小脳変性症の女性が、介護保険利用になって、特養のショートステイを利用することになった。

周囲が高齢者ばかりで戸惑う様子や、人間的に同性介助が徹底できない中で、同年代の男性に排泄介助や入浴介助を受けることもあり、する側もされる側も困惑していた。

現場の介護士さんもできる限り配慮してはくれたが、夜勤などのシフト編成上難しい部分もあり、利用前に親御さんにはその辺の事情も説明はしていたが、やはり再びの利用はなかった。